

心理学実験実習Ⅰ

1単位 3年(前期)

心理学実験実習Ⅰ

原 幸一・准教授/人間文化学科, 山本 真由美・教授/人間文化学科, 内海 千種・講師/人間文化学科, 福森 崇貴・講師/人間文化学科

【授業目的】心理学実験実習Ⅰでは、心理臨床場面で用いられるいくつかの心理検査を通じて、心理査定(心理アセスメント)のあり方を体験的に学習することを目的としている。個人のパーソナリティを理解することは容易ではないが、質問紙法検査や投射法検査などのさまざまな心理検査を総合的に用いることで、「その人らしさ」が少しずつ見えてくるのである。ここでは、自分自身が心理検査を受けることで、その特徴や意義を理解すると同時に、自身のあり方について考える機会になると思う。

【授業概要】心理査定(心理アセスメント)の実際と自己理解

【キーワード】パーソナリティ検査, 知能検査, ロールシャッハ・テスト, バウムテスト

【先行科目】『臨床心理学』(1.0), 『教育心理学』(1.0)

【関連科目】『人格心理学』(1.0), 『ストレス心理学』(1.0), 『青年期発達論』(1.0)

【履修上の注意】各教員が3~4回の授業を担当する。実習形式の授業なので、主体的な参加が必要となる。また、各心理検査に対する自分自身の反応から自己理解(自分自身への気づき)を深めることも期待したい。なお、課題レポートは提出期限を厳守することとする。

【到達目標】各心理検査の実施方法や解釈法などを習得し、心理学的アセスメントを行うための基本的技法を獲得することを目指す。また、自身の検査結果を基に自己分析を行い、自己理解を深めることを目標とする。

【授業計画】

1. ガイダンス
2. 質問紙法(YG性格検査)
3. 質問紙法(TEG)
4. 作業検査法(クレペリン)
5. 知能検査(概論)
6. 知能検査(実施)
7. 知能検査(事例検討)
8. 中間まとめ
9. ロールシャッハ法(理論)
10. ロールシャッハ法(実施)
11. ロールシャッハ法(解釈)
12. バウムテスト(理論)
13. バウムテスト(実施)

14. バウムテスト(解釈)

15. まとめ

16. レポート試験の解説

【成績評価】授業態度や出席、および各教員が課するレポートの成績を総合して判断する。

【再試験】なし

【教科書】各教員が実習中に適宜紹介する。

【参考書】各教員が授業中に適宜紹介する。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219222>

【連絡先】

⇒ 原 (hara@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

⇒ 山本 (3s06, 088-656-7192, yamamoto@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

⇒ 内海 (uchiumi@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

⇒ 福森 (fukumori@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

【備考】授業内容の順は、他の授業科目との関係で入れ替わることがある。

心理学実験実習 I

1 unit 3rd-year(1st semester)

Kouichi Hara · ASSOCIATE PROFESSOR / DEPARTMENT OF HUMAN SCIENCES, Mayumi YAMAMOTO · PROFESSOR / DEPARTMENT OF HUMAN SCIENCES, Chigusa Uchiumi · ASSOCIATE PROFESSOR / DEPARTMENT OF HUMAN SCIENCES
Takaki Fukumori · ASSOCIATE PROFESSOR / DEPARTMENT OF HUMAN SCIENCES

Target) 心理学実験実習 I では、心理臨床場面で用いられるいくつかの心理検査を通じて、心理査定(心理アセスメント)のあり方を体験的に学習することを目的としている。個人のパーソナリティを理解することは容易ではないが、質問紙法検査や投射法検査などのさまざまな心理検査を総合的に用いることで、「その人らしさ」が少しずつ見えてくるのである。ここでは、自分自身が心理検査を受けることで、その特徴や意義を理解すると同時に、自身のあり方について考える機会になると思う。

Outline) 心理査定(心理アセスメント)の実際と自己理解

Keyword) パーソナリティ検査, 知能検査, ロールシャッハ・テスト, バウムテスト

Fundamental Lecture) “臨床心理学”(1.0), “教育心理学”(1.0)

Relational Lecture) “人格心理学”(1.0), “ストレス心理学”(1.0), “青年期発達論”(1.0)

Notice) 各教員が3~4回の授業を担当する。実習形式の授業なので、主体的な参加が必要となる。また、各心理検査に対する自分自身の反応から自己理解(自分自身への気づき)を深めることも期待したい。なお、課題レポートは提出期限を厳守することとする。

Goal) 各心理検査の実施方法や解釈法などを習得し、心理学的アセスメントを行うための基本的技法を獲得することを目指す。また、自身の検査結果を基に自己分析を行い、自己理解を深めることを目標とする。

Schedule)

1. ガイダンス
2. 質問紙法 (YG 性格検査)
3. 質問紙法 (TEG)
4. 作業検査法 (クレペリン)
5. 知能検査 (概論)
6. 知能検査 (実施)
7. 知能検査 (事例検討)
8. 中間まとめ
9. ロールシャッハ法 (理論)
10. ロールシャッハ法 (実施)
11. ロールシャッハ法 (解釈)

12. バウムテスト (理論)

13. バウムテスト (実施)

14. バウムテスト (解釈)

15. まとめ

16. レポート試験の解説

Evaluation Criteria) 授業態度や出席、および各教員が課するレポートの成績を総合して判断する。

Re-evaluation) なし

Textbook) 各教員が実習中に適宜紹介する。

Reference) 各教員が授業中に適宜紹介する。

Contents) <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219222>

Contact)

⇒ Hara (hara@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

⇒ YAMAMOTO (3s06, +81-88-656-7192, yamamoto@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

⇒ Uchiumi (uchiumi@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

⇒ Fukumori (fukumori@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

Note) 授業内容の順は、他の授業科目との関係で入れ替わることがある。